

実質化された人・農地プラン

| | | | |
|------|---------------|------------|-----------|
| 市町村名 | 対象地区名(地区内集落名) | 作成年月日 | 直近の更新年月日 |
| 伊万里市 | 大川地区(川西集落) | 令和3年11月11日 | 令和5年3月28日 |

1 対象地区の現状

| | |
|---|--------|
| ①地区内の耕地面積 | 42.0ha |
| ②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕地面積の合計 | 42.0ha |
| ③地区内における60歳以上の農業者の耕地面積の合計 | 4.1ha |
| i うち後継者未定の農業者の耕地面積の合計 | 4.1ha |
| ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計 | 0ha |
| ④地区内において、今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 | 0ha |
| <p>(備考)当集落は、周囲を山に囲まれた盆地であり、一級河川松浦川の西側に位置する。基盤整備事業での大型機械の導入による機械利用組合での水稲や梨栽培が昔はほとんどの家で行われており専業農家が主流であった。しかし、高齢化による離農者が増え、集落内の農地維持及び多面的機能発揮の促進を図るため多面的機能支払交付金を活用した、農地維持、集落維持に努めている。</p> | |

2 対象地区の課題

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・当地区は30数年前までは全戸で稲作が営まれており、また、約8割の農家で大川特産の梨が栽培されていた。家族構成も3世代以上で暮らす世帯がほとんどであった。 |
| <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家を継ぐ子が極端に減少しており、少子高齢化が急速に進展している。 ・稲作農家、果樹農家の急激な減少。耕作放棄地の増化。農業水路維持等の労働者の高齢化と減少。 ・鳥獣(イノシシ、アライグマ等)被害が深刻であり、耕作意欲が減退している。 |

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・農地の集約化については、水田基盤整備事業により30aを基本とする水田が整備されている。近年では法人化した地区外の経営者が水稲栽培を広範囲で行い、水田面積、約1ha規模の集約化が図られており、今後も委託契約による農地集約を推進対応したい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・果樹栽培の集約化については認定農業者が中心となり各個人の団地化で対応していきたい。 |

■集落における中心経営体

| 属性 | 農業者 | 現状 | | 今後の農地の引受けの意向 | | |
|----|----------|-------|--------|--------------|--------|---------|
| | | 経営作目 | 経営面積 | 経営作目 | 経営面積 | 農業を営む範囲 |
| | 中心経営体数 8 | 梨、水稲他 | 20.3ha | 梨、水稲他 | 20.3ha | |

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

【水田面積の規模拡大、集約化】

- ・水稲農家の減少に伴い、地区外からの委託契約による耕作者が増加しており、作業の省力化のため、面積集約、規模拡大化が進められている。よって、農地を守る観点からも、さらなる協力体制が必要である。

【果樹栽培の集約化、団地化】

- ・栽培者の減少により、地区内での集約化は困難であるが、認定農業者が中心となり各個人の団地化を図るため地域住民の農作業協力体制の強化推進を図る。